

# 未来づくり懇談会（コロナ矢板）会議録

日 時：平成30年2月14日（水）

18：30～21：18

場 所：片岡公民館

出席者：矢板市長、教育長、総合政策部長、  
総務部長、下水道課長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な片岡地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等について説明。

○コロナ矢板の浄化槽の現状と課題について

平成20年の汚水処理施設の移管後、平成21年から平成25年まで（平成23年を除く）は使用料収入も安定し、特別会計の予算内で適正に経営できていたが、平成26年から光熱水費や修繕費用などの経費と、使用料収入の減少による収支バランスが崩れたことから適正な管理運営が困難な状況になってきた。

平成29年11月11日に、コロナ矢板排水処理事業に係る懇談会と題して、役員会議の際に市への移管までの経過と移管後の経過、決算状況、コロナ矢板を含めた下水道等事業の運営に係る課題、使用料金の見直しについて説明をした。

その際の質問は以下のとおり。

q 1 設備の老朽化や料金を上げる必要は分かるが、外の下水道事業は別として、コロナ矢板だけとするのはやめてほしい。

a 1 今回は、経営の実態と課題を知ってもらうことで、平成30年度から見直しではない。コロナ矢板だけでなく、市の管理施設全体について、見直しの時期にきている。

q 2 老朽化施設を改修する補助事業はないのか。補助事業の対象になれば、経営の改善が図れるのではないのか。

a 2 公共下水道等の事業は改修に係る補助事業があるが、コロナ矢板等は公共下水道事業以外の事業なので補助は無い。

- q 3 コリーナ矢板だけ、繰入金を問題にするのは理解できない。
- a 3 公共下水道事業は、未だ資本投資をしている段階で事業推進している。投資する資産を財産とみなし、現在下水道を利用している方に費用の全てを使用料金へ転嫁することは不公平になる。また、使用料金の激変を避け、平準化を図るといふ狙いがある。
- q 4 使用料金を他の下水道事業と別にするのはおかしい。料金を上げるのなら、矢板市全体で考えるべきでは。
- a 4 下水道に係る特別会計は、公共下水道事業、農業集落排水事業、コリーナ矢板排水処理施設の3つは別会計で経営しているので、今回はコリーナ矢板行政区と懇談を行っている。
- q 5 下水道へ接続する話はないのか。
- a 5 下水道への接続については、現段階で何年ということとは言えない。

排水処理施設の運営管理に係る課題を解決し、健全で持続可能な経営体制を構築するため、使用料金の見直しに関して、「矢板市行財政改革推進計画」を基本として、検討していく。

- Q 1 問題点が「大変だ」というのは分かっている。市の行政として、コリーナの下水道はどういう風に考えているか公式に示してほしい。懇談会で説明したので、なし崩し的に「値上げします」というのは困る。
- A 1 特別会計は独立採算を旨としているので、他の地域、他の施設等と横並びではなく、コリーナ矢板浄化槽に関する特別会計の中で、数字を合わせていくということが求められているということだけは理解してほしい。
- Q 2 大震災みたいな事態が起きて全部壊れたとしたら、修繕に係る費用をコリーナの住人が出してくれということになるのか。
- A 2 既に市に移管されているので、市での対応となる。
- Q 3 コリーナ矢板の固定資産税は最初から高く設定されていると聞いたが本当か。
- A 3 コリーナだけを、固定資産税を高くすることは一切ないが、コリーナに建っている建物は、造作や設備、家に付帯するコンセントや照明も凝っているので、家屋にかかる固定資産税は当然高くなる。

固定資産の評価は、総務大臣の定める【固定資産評価基準】に基づき評価を行っている。

◆土地

コリーナ地区は平成27年度から路線価にて評価を実施。

◆家屋

家屋調査に基づき算出された1㎡あたりの再建築費に延べ床面積・1点

単価・経年減点補正率を乗じて算出。評価額は3年に1回経年減点補正率の減少とともに見直しを行う。

Q 4 1点目は、ここと同様のプラントが宇都宮市内にあるのはご存知か。参考事例を調べて対応してほしい。

2点目は、維持管理に苦勞しているのは理解できるが、ちょっと視点を変えれば、もっと大きく電気代が節約できるのでは。最新の維持する技術情報を入手してもらい、できる部分は改善してほしい。

3点目は、修繕の積立基金があると聞いたが、基金を修繕費用に回せないのか。

A 4 1点目。同じようなコミュニティプラント施設について。他市町の状況も少しは調べている。近隣では宇都宮市が管理している地域下水処理施設。

2点目。水処理センターには槽が4槽あり、それぞれにブロワー、モーター、ポンプがある。水質を見ながら調節し、今は1基とか2基しか動かしていない。管理業者がこまめに行っている。

3点目。平成24年に基金条例を作り基金を作ったが、かなりの少額。使ってもすぐ終わってしまう、修理もできないようなお金しかない。

## 5 行政区設定テーマ

### ○デマンド交通の導入について

高齢化が進むなか、コリーナは特に山が多い、坂道が多いということもあり、足の問題がいつも話題となる。バスはあるが、当然本数も限られているし、路線も限られている。時間もなかなか合わないという問題がある。

また、バス停まで歩いていくのが大変。ドアトゥドアというのは言い過ぎになるかも知れないが、もう少しこまめに、融通の利くような運行をできるような乗り物はないだろうか。

A デマンド交通の導入については、何回か市でも検討台には上がっている。市営バスも、使いにくいという評判はあるが、通勤・通学などで浸透をしてきた。利用者は減ってはいるが、無料パスの効果もあり増えてきつつある。

今回の無料パス券の発行とともにアンケートを取ったところ、タクシー券の交付という意見が一番多かった。皆さんの要望やアンケート結果、現在利用されている方の利用も考慮して、市内全体を見渡して考えていきたい。

平成 29 年 10 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験
平成 30 年 4 月	65 歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化 65 歳以上 75 歳の誕生日まで
平成 30 年 4 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施
平成 30 年 4 月	福祉タクシー券交付事業の見直し 85 歳以上 → 80 歳以上 ※年齢引き下げ 月 2 枚（最大 24 枚） → 年 24 枚 市外タクシー業者との協定実施

○1 市営バスは日曜、祭日は運行していないので、運行してほしい。また一般利用の料金が安い。

Q2 タクシー券の話があったが、乗りたくてもタクシーがないので考えてほしい。

A2 タクシー券事業を導入するにあたって、市外の業者も福祉タクシー券を使えるように交渉し、市外の業者も参入してもらえらると思う。

平成30年4月	福祉タクシー券交付事業の見直し
	85歳以上 → 80歳以上 ※年齢引き下げ
	月2枚(最大24枚) → 年24枚
	市外タクシー業者との協定実施

## 6 意見交換

Q1 1点目。生涯学習館の時計が壊れて半年くらいそのままになっている。また、カーテンが半開きになって全然動かない。

2点目。道の駅のエコモデルハウスを何か別の方法で利用価値が高まるようなことはできないか。

3点目。コリーナの塩谷町よりも運動公園があるがトイレがない。水が出ない。物置がないので、設置したら利用価値が上がるのでは。

A1 1点目。生涯学習館については、担当課に伝える。

平成30年3月	時計交換
平成30年4月	カーテン修理

2点目。エコモデルハウスについては、国の補助金をもらって作った関係で、環境関係にしか使えないという制約がある。年間500万円くらい指定管理者に指定管理料を払って維持管理している施設なので、多少補助金を返す覚悟で、自由に使わせてもらえないかとの協議を始めている。

3点目。開発でできた公園などは市内に膨大な数があり、手が回らない状況にある。

Q2 管理組合から地主さんの方に「この木が危ないので切ってください」と写真付きで依頼しているが切ってもらえない。市で何かよい方法はないか。

A2 木がどのくらい繁茂しているかという程度にもよると思う。空き地の草が伸びて困っているケースであれば、都市整備課から市長名の文書を発送しているので、相談してほしい。

Q3 書類を窓口に出しに行くのが大変なので、公民館などで手続きできるようにしてほしい。

A3 市の職員が皆さんのお宅に伺えれば良いのだが、職員の数は全国の類似自治体の中では非常に少ないと言われている。市の職員を増やすとなると財政がもたない。地域の元気な高齢者がボランティアで協力してもらえらるような取り組みができればと思う。

Q 4 片岡駅から歩いて医療機関に行くには距離があるので、市営バスのバス停を設置してもらえないか。

A 4 バス停の設置は、市営バスのダイヤと密接に関係している。市営バスは3台のバスで運行しており、多くのバス停を何秒刻みで回っている。「バス停の1つくらい」と思うかも知れないが、バス停1つで全体のダイヤが乱れかねない。かなり過密なスケジュールで市営バスを運行していることは理解してほしい。

平成 28 年 5 月	地域公共交通会議開催。
平成 28 年 6 月	ダイヤ改正実施。
平成 29 年 4 月	巡回ルート等の検討。